

主題：パウロの書簡における真理の重要な項目

メッセージ 6

死人に命を与え、  
無から有を呼び出される方にある  
信仰によって義とされる

聖書：創 15:1-6. ローマ 3:20, 24-25. 4:3, 5, 13, 17. Iヨハネ 5:11-13. IIコリント 5:17

- I. ローマ第3章24節は、わたしたちが「彼（神）の恵みにより、キリスト・イエスにある贖いを通して、義とされる」ことについて語っています：
- A. 義とすること（義認）は、神が彼の義の標準にしたがって民を良しとする行為です——22節。
  - B. 神はキリストの十字架上の死に基づいてわたしたちを義とし、わたしたちを贖いました。イエスの血は、わたしたちのために永遠の贖いを獲得しました——25節. ガラテヤ 3:13. テトス 2:14. Iペテロ 1:18-19. 2:24. 3:18：
    - 1. キリストはわたしたちの罪のために代価を払い、彼の贖いにおいて、わたしたちに対する神のすべての要求を満たしました。神は義であるので、わたしたちを無代価で義としなければなりません——ローマ 3:25。
    - 2. そのような義認は、神の恵みによるのであって、わたしたちの働きによるものではありません——20節. ガラテヤ 2:16。
- II. アブラハムは信仰によって義とされました。彼は「エホバを信じた。そしてエホバはそれを彼の義と勘定された」——創 15:6. 参照、ガラテヤ 3:6. ローマ 4:2-3：
- A. 神を信じることは、神が繰り返しアブラハムに現れたことに対する、彼の自然な反応でした。彼の信じることは、神がアブラハムの中へと注入した要素が彼の内側で湧き上がってきたものでした——創 15:1-6. 使徒 7:2. 創 12:1-3. 13:14-17。
  - B. アブラハムが信じたことに対する神の反応は、アブラハムを義とすること、すなわち、アブラハムを義と勘定することでした——創 15:6：
    - 1. アブラハムは神の言葉を明確に信じました。そして、神はそれを彼の義と勘定しました——ローマ 4:2-5。
    - 2. 神の義認は、わたしたちの良い行ない（労働）に対する報酬（賃銀）ではありません。それは、キリストの贖いを通して、わたしたちに無代価で与えられる恵みです——4節. 3:24：
    - 3. 神がアブラハムを義としたことは、神がアブラハムに対して幸いであり、アブラハムと神が調和一致していたことを意味します。
  - C. アブラハムが神に義とされたことは、罪とは関係ありませんでした。むしろ、それは子孫を得て、王国を生み出して、世界を相続するためでした——4:3, 13：
    - 1. 創世記第15章6節で、アブラハムが信じたのは、神が何かを自分の中へと造り込んで、自分の存在の中から子孫を生み出して、神の定められた御旨を完成することができるということでした——4節。
    - 2. ローマ第4章が示しているように、義認は、単にわたしたちが神の罪定めから救い出されるためだけではなく、それ以上に、神が多くの子たちを得て、キリストのからだを構成し、神の王国とならせ、神の定められた御旨を完成するためです——8:29-30. 12:4-5. 14:17。
- III. アブラハムは、二つの事柄について神を信じました——イサクの誕生、これは神が「無から有を呼び出す」神と関係があります。イサクをささげることと再び得ること、これは、「死人に命を与える」神と関係があります——ローマ 4:17：
- A. 神が無から有を呼び出すことは、神の創造の全能です——17節：
    - 1. 創造する神として、彼は造り出すのに何の材料も必要としません。
    - 2. 神はただ語ることによって、無から何かを創造することができます。「彼が語られると、それはあった」——詩 33:9。
  - B. 神が死人に命を与えることは、復活の偉大な力です——ローマ 4:17：
    - 1. この偉大な力はわたしたちに、死を取り除かせ、死に属するすべてのものに打ち勝たせます。

2. アブラハムは、神の命令にしたがってイサクをささげた時に、この復活の偉大な力を経験しました——ヘブル 11:17。
- C. アブラハムはイサクが生まれた時、神が無から有を呼び出す方であることを信じ、経験しました——ローマ 4:17-21 :
1. 神は、アブラハムを大いなる国民とすると約束しました。この大いなる国民とは神の王国であり、旧約における神の王国としてのイスラエルの国、新約における神の王国としての召会、来たるべき時代における千年王国、永遠における新天新地から成っています——創 12:1-2. マタイ 21:43. 16:18-19 前半. ローマ 14:17. 啓 11:15. 22:5。
  2. 創世記第 15 章で、神は入って来てアブラハムに、彼が神の定められた御旨を成就するために、内側で神の恵みを必要とすることを見せました。神の定められた御旨とは、人を得て神の私たちをもって神を表現し、彼の主権をもって彼を代行して、地を所有することです——1:26-28 :
  3. アブラハムは、神が自分の中に何かを造り込んで、必要とされる子孫を自分から生み出すことができると信じました——15:6。
- D. アブラハムは、イサクを全焼のささげ物として祭壇の上で神にささげた後、彼を返してもらった時、神が死人を復活させる方であることを経験しました——ローマ 4:17. ヘブル 11:17-19. 創 22:1-19 :
1. ベエル・シバでの生活は、モリヤの山で神にささげられた全焼のささげ物を生み出しました——1-2 節 :
    - a. イサクの生活の源は、彼を全焼のささげ物、すなわち神の満足のために神にささげられる者とならせました——2, 7-8 節。
    - b. イサクに関するあらゆることは神から出た、神によるものであり、神はアブラハムに、全焼のささげ物としてイサクをささげ戻すことを求めました——1-2 節。
  2. イサクはささげられた後、復活の中でアブラハムに返されて、祝福となりました。同じように、わたしたちが神から受けたものを神にささげた後、彼はそれを復活の中でわたしたちに返され、それは祝福となって、神の定められた御旨を完成します——12-13 節, 16-18. ヘブル 11:19。
- IV. わたしたちは、死人に命を与え、無から有を呼び出す神にある信仰によって義とされた、キリストにある信者として、命を与え、無から有を呼び出す神を経験します——ローマ 3:24-25. 4:3, 5, 17 :
- A. 神はわたしたちを義とした時、わたしたちに命、すなわちキリストにある神聖な永遠の命、不朽の命を与えました——I ヨハネ 5:11-13, ヘブル 7:16 :
    1. 「神聖」は、神に属し、神の性質を持つことを意味します——エペソ 4:18。
    2. 「永遠」は、非受造、始まりと終わりがなく、自ら存在する、永久、変わることなく存在する、不朽を意味します——ヨハネ 3:15-16. I ヨハネ 5:13。
  - B. 神がわたしたちを義とした時、無から有を呼び出し、わたしたちを新創造としました——ローマ 4:17. II コリント 5:17 :
    1. 以前、わたしたちの中の何も新創造ではありませんでしたが、神がわたしたちを義とした時、その瞬間に、彼は無から有を呼び出しました。今や、わたしたちの内側には新創造があります——17 節。
    2. 新創造、すなわち神と人とのミングリングは、三一の神がキリストの中でその霊として、わたしたちの存在の中へと造り込まれるときに起こります——エペソ 3:16-17 前半。
  - C. 過去、わたしたちは神に義とされた時、神が彼の義の標準にしたがってわたしたちを良しとしたことを見ました。今、わたしたちは、義とすることが、神聖な永遠の命をわたしたちに与え、新創造をわたしたちの内側へと呼び出すことを含むことを見ます——ローマ 4:17。